

◆いじめ防止の取組について

1. 今後は、リーダー以外の普通の子どもたちをいかに行動させるか、リーダー以外の6~7割の層にどうやって浸透させるかが課題。
2. 全県で集まるよりは、学校や地域におろして根付かせ、行動化させることが大切。

◆ネット問題について

1. 学校において、基本的な部分をカリキュラムとしてやっていただけるとありがたい。
小・中・高等学校と系統的に実施できる、計画的なカリキュラムやプログラムがあれば望ましい。
系統立てられたネットモラルや、メディアリテラシーに関する教育が早急に考えられなくてはいけない。
2. 教員に指導する力量があるかという問題、教員の研修充実も大きな問題である。
3. どの家庭にもわかる、呼びかけやすい共通のルールや定着するようなスローガン等によって、取組が広がっていけばいい。
4. 各学校ですべての保護者が出席できる会を開いて、共通の意識を持たせなければならない。しかし、なかなか保護者に出てきていただけない。
5. 経済的な影響もあり、保護者も多忙で会に出てこない。子どもと携帯で連絡を取れるメッセンジャーのみに意義を感じ、それ以上についての指導はしていない保護者が多い。
家庭の中でもブレーキをかけられる環境をどう作るか。保護者の啓発をいかにして展開するか。

◆相談体制について

1. 本来、学校で起こった問題は学校で解決できる機能が備わっていることが望ましい。
初めの一步が踏み出しやすく、子どもが、すぐ目の前の先生に相談でき、先生も適切なアドバイスができる。
そのうえで、それだけでは解決できないことに対して、相談機関が協力していただけるとするのが一番ありがたい。
2. いつでも相談していい、頼っていいと思えるよう、学級をもっともっと安心できる場にする。学級経営を大事にしていかなければいけない。
3. 教員の資質・指導力の向上や教員の持つ不安感解消という課題がある。若い教員が多くいるので、そのバックアップ体制も必要である。
4. 教員にゆとりがなければ、子どもたちや保護者に対して、安心していただくということは難しい。先生が気楽に相談できる場所が必要。
冷静に客観的に対応しないと間違った判断をする可能性がある。今の時代はSCやSSW等の専門性を生かして、役割を分担しながら連携していくことが大事である。
ワンストップで、しかもトータルなシステム(場所)が、高知県にはない。
5. 市町村や県の教育委員会が、そのワンストップの役割をある意味担っている。それが機能していない部分があるのではないか。
6. 私立学校はSC等の配置が少ない。教員も生徒も困っている。増やしていただければありがたい。
7. 外部機関で受け付けた相談事項が、どうすれば学校と共有できるか。
8. 重大な人権侵害が発生した場合は、弁護士会の弁護士にも相談するという選択肢も検討いただきたい。
9. 議論のなかで出てこないが、学校で決めた組織を有機的に使うことが必要である。
10. 「速やかさ」と「深刻な問題解決ができるか」という両面から考えたとき、相談体制をどう改善していくべきなのか。システムの仮説などを作って、次回詰めた議論をしたい。